

# 令和2年度 学校評価書

常葉大学附属とこは幼稚園

園長 池田 美穂

## 1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 . . . . . 心豊かでたくましい子

重点目標 . . . . . 一人ひとりが主体性を発揮し、周りとのかかわりを楽しむ

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活リズムを大切に、安心感の中で過ごす</li> <li>・保育教諭等に欲求や思いを受け止めてもらいかかわる中で愛着関係を築く。</li> <li>・衛生的で安全な環境の中で、のびのびと過ごす。</li> <li>・身の回りの事に興味や好奇心を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月齢や生活経験に合わせて、安心して過ごせるようにゆとりを持って関わってきた。個々の対応となる為、担当保育教諭の連携を密にし、一人ひとりに合わせた丁寧な関わりができた。</li> <li>・ゆったりと関わる中で愛着関係を築く事ができた。</li> <li>・こまめな消毒や安全確保をする事で衛生的な玩具や遊具でのびのびと遊ぶ事ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも感染対策をとりながら安全確保・衛生に留意して1人1人に合わせた援助をしていた。愛着形成に努めていた。</li> </ul>	A
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びを繰り返して楽しむ</li> <li>・安心できる環境の中で、のびのびと遊ぶ。</li> <li>・様々な生活の場の中で見る・触れる・真似る等の経験をし、人や物への関心を広げる。</li> <li>・安定した環境の中で身の回りの事に興味を持ち少しずつ自分でやってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心した園生活が送れるよう、個々の気持ちに寄り添いながら関わる事で自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られるようになる。また、子ども達の「やってみよう」という思いを大事にし、励ましたり、やり方を伝えたりする事で、身の回りの事に興味を持って自分でやろうとする姿も出てきた。</li> <li>・月齢や家庭状況によって発達に個人差が大きい。その為、一人一人に合わせた援助を意識してきた。また、職員間で話し合いをする事で意識の共有をし、連携が取れるようにしてきた。</li> <li>・0歳児の人数が増えてきた中で、動きの幅や身体の使い方の差を考慮した上でどう活動していくか悩む事も3学期になり多くなった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自主性を尊重し見守り援助をしている。0.1歳児が同じ部屋なのでスペースに問題があるとのことだがテラスなど利用できる場所を工夫していけるとよいのではないかと。</li> </ul>	B
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。</li> <li>・子どもの生活の安定を図りながら、身支度や遊び等やってみようとする気持ちを大切にしていく。</li> <li>・保育教諭や友達とのかかわりの中で一緒に過ごす心地よさを感じる。</li> <li>・好きな遊びを見つけてのびのびと楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入園・途中入園の子がいたり個別支援が必要な子もいたため、担当保育教諭との連携をきちんと行い一人ひとり丁寧に関わるようにした。また、保護者とも情報共有をするよう心掛けた。</li> <li>・排泄などの身辺自立については個人差が大きいためチェックリストを作り個々のタイミングをはかって進めていった。身支度も自分で出来ることを少しずつ増やし3学期からは自分で行うようにした。</li> <li>・子ども達の興味に合わせ、更に遊びを楽しめるよう必要な物を用意したり一緒に遊びを楽しんだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長に個人差がある中で1人1人に細かく丁寧に寄り添っている取り組みが見られる。この丁寧さが子どもたちの無理のない身辺自立へとつながっていったのではないかと。</li> </ul>	A

満 3 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭や友達とかかわり合いながら、安心感を持って生活をする。</li> <li>・簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。</li> <li>・好きな遊びを見つけて、保育教諭や友達とのびのび楽しんで遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響で、入園開始が6月となる。順次入園し、最終1月には18名となった。生活リズムの整うまで個人差が大きかったが、3人の保育教諭がいたため個々に丁寧にかかわることができ、次第に馴染むことができていった。</li> <li>・身の回りの始末についても個々の援助を大切にしていた。自分でやろうとする意識も高まり、できることが大分増えてきている。</li> <li>・好きな遊びをまずは保育教諭と存分に楽しむことで、友達とかかわりが自然に広がってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナのため、6月スタートとなり難しかったと思うが保育者が協働し丁寧に关わることで子どもたちが安心感をもって生活できたのではないか。</li> </ul>	A
3 歳 児	<p>○保育教諭や友達と一緒に楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭や友達と触れ合いながら、安心して生活をおくる。</li> <li>・集団生活に必要な約束や習慣を知り自分で行おうとする。 (挨拶・身支度・食事・排泄・着替え等)</li> <li>・好きな遊びや安心できる場所を見つけて楽しく遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭や友達と関わる中で、好きな遊びや場所を見つけ遊びこむことで安心して生活を送れた。</li> <li>・身支度や着替え等保育教諭と一緒に進めて行くことで、少しずつ自分で出来るようになり、自信を持って出来るようになった。</li> <li>・生活の流れを知り、自ら進んで手洗い、うがい、消毒を行った。</li> <li>・遊びの中で友達に自分の気持ちを伝え、相手にも思いがあることに気付こうとしてきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがのびのびとアイデアを出し合いながら園生活を送っている様子がブログでもよく伝わった。</li> <li>・自ら安全や健康に気を付けることもできている。</li> </ul>	A
4 歳 児	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びに、保育教諭や友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>・身近な自然に興味関心を持ち、気付いたり、考えたりして楽しみ、生活に取り入れて遊ぶ。</li> <li>・遊びや生活の経験を通して、必要な言葉を身につけ、自分の思いを言葉や態度で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団遊びをする環境を意図的に取り入れていったことで、様々な友達とかかわる機会が増え、友達関係が広がっていった</li> <li>・虫かごや虫取り網、図鑑を用意したり、きのこや野菜の栽培等をして、子どもたちの興味関心が持てるよう工夫していたため、子どもたちが自分たちで図鑑を見て調べたり見比べたり好奇心旺盛に自然にかかわるようになった。</li> <li>・日頃の当番活動や遊び等を通して、思いを伝え合う経験を多くしてきた。また、トラブルがあった際も自分たちで声を掛け合い、解決しようとする姿が見られている。個人差はあるものの、ほとんどの子が自分の思いを言葉で表現するようになった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の輪が広がっていくことに留意して遊びを設定できていた。環境の工夫により、人間関係や知的好奇心への欲求が満たされ「表現したい」につながっているようだ。</li> </ul>	A
5 歳 児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と話し合ったり、協力したり、工夫したりして、最後までやり遂げようとする気持ちを持つ。</li> <li>・自分達で遊びや生活を進める、就学に向けて自覚や自信を持って生活を進める。</li> <li>・友達の気持ちを分かろうとし、思いやりの気持ちを持つ。</li> <li>・自然や環境への興味を深め、その理由や意味を探っていく気持ちを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや行事等、その都度その時の状況を踏まえた上で、皆で考えを出し合ったり、それに向けて子ども達で準備等進めていった。興味関心をより深め、自分たちでもっと楽しくする姿が見られた。</li> <li>・日々の生活の中で、気付いた事や覚えたことは自分から行えるよう、促していく事で、徐々に主体的に様々な事に関われるようになったり、小さい子や友達にも、相手の立場に立った接し方が出来るようになってきた。</li> <li>・飼育当番を通して、世話の仕方を覚え、動物に対する思いやりの気持ちが育った。また、草花の様子や気候から季節の変化を感じ取ったり、野菜の栽培を通して成長に興味を持ち友だちと一緒に収穫を味わった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が子どもたちの発想を尊重し見守り続けることで主体性が育ち、自律につながっていた。遊びを通して協同性を培うという目標が達成されている。コロナ禍でも最大限に配慮と努力をして保育に向き合っていた。</li> </ul>	A

2 各指導部等にかかわること

評価項目（各指導部等のねらい・取組等）		自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
1 安全・ 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な場面を想定した避難訓練を定期的実施し、子どもの安全確保に努める。</li> <li>○地域、家庭との保健に関する情報交換を綿密に行い、流行性の疾病情報の開示を随時行う。</li> <li>○食物アレルギー等子ども一人ひとりの健康に配慮した保健指導を行う。</li> <li>○定期的な遊具の点検と、園庭の安全管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、非常食訓練を初めて実施した。不安な環境の中で食べ慣れないものを食べるのしないように取り入れた。子どもの様子や、保育教諭の段取りの練習にもなり良かった。</li> <li>・コロナ禍だったこともあり、特に衛生用品の見直しや補充、各場所の消毒をこまめに行うようにした。</li> <li>・アレルギー対応においては、給食業者や保護者との連絡を密に取り、個々に配慮していった。</li> <li>・日直日誌に、遊具点検項目を作り毎日の中遅番がチェックし、保育教諭全員が確認できるようにしていった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面のねらいが十分達成されている。衛生用品の見直し補充、消毒、アレルギー対応など安全確保に努めている。</li> <li>・避難訓練を実施しにくい状況の中で非常食訓練等の取り組みも大変有意義である。</li> </ul>	A
2 運営組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○迅速な報告・正確な連絡・簡潔な相談を適宜行う。</li> <li>○幼児教育は「組織的・計画的に」を合言葉に、円滑な運営に努める。</li> <li>○教職員相互の信頼関係を大切にしながら、チーム保育を意識し、常勤非常勤が情報共有することで相互理解に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日朝礼、夕礼の実施、デイリーメモ、ホワイトボード等を通し報連相を心がけた。しかし、活動内容や時間、チェックが未記入のこともあったため今後徹底していきたい。また、延長保育の子どもが増えている中、事務と保育教諭との連携も心がけたい。</li> <li>・コロナ禍の中、園長を中心として「今できることは何か」模索し話し合い、全職員でのチーム保育に努めた。非常勤のアイデア・気づきを取り入れて行う保育がなかなか難しかったため、改善が必要だと思う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム保育を意識し、職員間の連携で不十分な点を十分認識し改善に努めている。複雑な仕組みになりがちだが、どうしたら確実に伝わるかを見直し、シンプルな伝達方法に立ち返ってみるのもよい。</li> </ul>	B
3 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園内研修のテーマ「より良い認定こども園を目指して」を通して、子ども理解を深めて職員間で情報を共有したり、記録についての振り返りをしたりして、自身の保育を見直す機会にする。</li> <li>○合同研修会や、外部研修などに参加し、スキルアップを図るとともに、保育の質の向上に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修では SOAP を使って自分の保育や子どもの様子を振り返るとともに、教師間でさらに良い保育ができるよう、意見を出し合った。また、ドキュメンテーションを各自書いてみることで、環境の再構成をより子どもに寄り添う形で考えるきっかけになったり、深い読み取りをしたりすることにつながった。また、保護者に対しても、子ども様子を伝える一つの手段として取り入れていくきっかけとなった。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響により合同研修会は、各園の代表者が資料を基にコロナ対策等について話し合い、その結果を書面で共有した。外部研修はリモートがほとんどとなったが、各自スキルアップにつながった。ただし通信環境やパソコンの台数、時間の確保など、リモートで行う上での問題点もあったため、今後、改善が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の仕方に工夫がみられる。リモートでの研修の問題点もあるが改善に努め来年度以降の充実が期待される。</li> <li>・SOAPの活用はとても良い。積み重ねていくことで園にとって大きな財産となると同時に発達支援が必要な子と保護者にとっても有用だと思う。</li> </ul>	B

<p>4 家庭・地域との連携</p>	<p>○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝え、理解に繋げ、信頼関係を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事に関して、どのような意義、意図があるのか、保護者理解につなげられるようにする。</li> <li>・気になる子に対して、特別支援コーディネーターを中心に面談を行ったり、相談機関を紹介し、園と保護者と一緒になって関わり方を考えられるようにする。</li> </ul> <p>○「とことこクラブ」を開催し、未就園児が親子で楽しいひと時を味わえる様、各回共に工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年度初めの2カ月間、自粛期間となり、園行事を延期したり内容を変更したりした。また、保護者の園内立ち入りを制限した事で、保護者とのコミュニケーションの取り方や発信の仕方が大きな課題となった。</li> <li>・今まで行ってきた、ブログだけでなく、発表会への取り組み過程が分かりやすいよう、写真をカラーで印刷して手紙を配布したり、動画配信も行った。</li> <li>・療育機関へ通っている子は、特別支援コーディネーターを介して、連携を図る。</li> <li>・「とことこクラブ」は、新型コロナウイルス感染対策として、人数制限の事前予約制とした。ホームページでのお知らせがメインとなったが、未就園保護者には浸透し、問い合わせが多くなった。</li> <li>・次回の予約をしてから帰る方もいて、親子で楽しい時間を提供できたと感じている。保護者同士の交流の場となっていた。</li> </ul>	<p><b>A</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため保護者が来園できずほとんど関わりがなかった保護者もいたと思うが動画やカラーの手紙の配布など工夫して家庭との連携に努めた。</li> <li>・とことこクラブの対応は人数制限や事前予約など工夫が見られコロナ禍でも地域とのつながりがあり、良い取り組みだと思う。</li> </ul>	<p><b>A</b></p>
<p>5 常葉大学内連携</p>	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両園合同研修会を行い、情報交換をしながら、子ども理解を深める。</li> </ul> <p>○中学・高校・短期大学部・大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○短期大学部との情報交換。</p> <p>○他学校施設の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両園合同研修会は、新型コロナ対策をしながら少人数で集まり、情報交換を行なう事が出来た。今年度は、コロナ対策を中心に話し合った。</li> <li>・短期大学部、大学の実習生の受け入れは行う。中学、高校生は、学校側から辞退の連絡があった。</li> <li>・大学の先生から、専門的な話を聞く機会を作り、安全な保育環境を考えるきっかけとなった。 (看護学部、教育学部)</li> </ul>	<p><b>B</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、中高生の実習ができなかったが、未曾有の事態での対応としては正しかったと思う。</li> <li>・両園合同研修会や大学との連携は来年度も引き続き工夫しながら続けていきたい。</li> </ul>	<p><b>B</b></p>

\*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である